

學 藝 新 聞

第12号
2019年（平成31年）3月20日発行

- 留学生 交流プログラム……………1
- 留学生 交流プログラム……………2
- 附属中 マルチカルチャーデー……3
- 輝く人（卒業生・在校生紹介）……4・5
- 学芸ニュース・学芸トピックス……6・7
- 学芸スポーツ……………8

発行元
学校法人 大阪学芸
大阪学芸高等学校
大阪学芸高等学校附属中学校
〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173



December

カナダ・オタワから
4名の留学生がやってきました。



学芸高校の制服を着て▶
野球部の練習にも参加
一緒に汗を流しました
▼



留学生は伝統的な日本文化だけではなく、アニメ・マンガなどのポップカルチャーにも非常に興味があり、生徒との交流を通して、日本文化の理解を深めていきました。

12月に受け入れた生徒たちは授業だけでなく、クラブ活動も一緒に行いました。本校生徒は英語で積極的なコミュニケーションをとり、異文化を学ぶ良い機会となりました。こうした交流プログラムはお互いの視野を広げ、グローバル感覚をいっそう養うことになると考えています。

今年度3月にもカナダ・グロスター高校から2週間留学生を受け入れました。

海外からの留学生と一緒に学んでいます。 留学生交流プログラム

本校では生徒を送り出す留学プログラムに加えて、海外からの留学生受け入れも行っていきます。

昨年度はカナダ・グロスター高校から、本年度9月にアメリカ・ヒルトップ高校から、また、12月にはカナダから留学生を受け入れました。ご厚意により、留学生は本校生徒・保護者のご家庭にホームステイをさせていただきました。



September

アメリカ・
ヒルトップ高校から
24名の留学生がやってきました。



英語を使って積極的にコミュニケーション



異文化交流を通して理解を深め合いました



ポップカルチャーの紹介をしました



スポーツ大会で一緒に楽しく競技しました



剣道部は現在、高校2年生3名、高校1年生5名、中学2年生2名の計10名で活動しています。普段の稽古は男女合同で行っています。「剣道」というと、幼少期から道場に通い続けている人の多いイメージがありますが、本校剣道部は全員が経験者ではありません。高校生になってから始めた者もいます。

月曜日は放課後に長居公園で筋力トレーニング、火・水・金曜日は朝練、木曜日は放課後に稽古をしています。稽古時間は多くありませんが、その分一回一回の稽古の質を高められるように心がけています。また、土・日曜日は不定期で、他校との合同稽古や練習試合を行っています。



近畿。全国大会出場を目指して 技を磨き、心身の鍛錬をつむ



剣道部員 高校1年 山本 竜希さん

僕は、高校から剣道を始めました。はじめは何もわからないまま、まずは教えてもらう通りに頑張りました。素振りもいくつか種類があり、この素振りの段階で苦労しました。また道着、袴、胴、面といった、いろいろな種類を短時間で完全に身に付けられるようになるには数週間かかりました。そしていざ防具を着けて練習に参加するやいなや、メニューが多くて困惑しました。剣道は、打ち方だけでなく技の受け方も覚えなといけないのです。ひたすら練習に励む日々が何ヶ月か続く中、自分でも少しずつ感覚を掴めるようになりました。しかし、試合ではなかなか一本をとることが出来ず、すぐに負けてしまいました。それでも試合や練習を積み重ねていくと、1月の大会で2段相手に一本を取ることができました。これは、先生を始め、先輩や同期のおかげだと思っています。「諦めなければ出来ないことはない」ということを学びました。

剣道部主将 高校2年 瀧川 連さん

みなさんは剣道にどのようなイメージがありますか?臭い、辛そう、暑そうなどネガティブな印象を抱いているかもしれません。しかし、実際にはみなさんが想像しているほど辛いことはなく、周りの人にかっこいいと言われてたり、一本取った時の達成感があったり、楽しいことがたくさんある競技だと思えます。

僕たち剣道部は、文武両道をモットーに、日々の稽古にも勉強にも全力で取り組んでいます。剣道部には朝練だけで放課後の稽古がない日が週に3日ほどあり、部活と勉強の両立もはやくなっています。稽古時間があまり取れないので、短時間で集中して内容の濃い稽古にできるように工夫することを心がけ、部員全員、活気と明るさで練習を頑張っています。

写真部

強い思いで一瞬を「切り撮る」ために、感性を磨き、技術の向上を目指しています!

現在、高校は3年生15名、2年生5名、1年生14名、中学校は2年生2名の計36名で活動しています。

写真はカメラのシャッターを押せば誰でも簡単に撮れてしまうものですが、「記念写真」ではなく、音楽や美術など他の芸術と同じ「作品」として、見た人と感動を共有しつつ自分や被写体の内面を表現するためには、技術と作品への強い思いが必要になります。また、行事を撮影する場合は、求められる写真を適切に撮り切る責任もあります。部員たちは写真部として活動する中で、少しずつ写真作品に対する意識を高め、豊かに表現するための技術を向上させています。



●部員からの声●

「学校行事やクラブ活動風景など、リアルな感動の場面を撮影することができるので、やり甲斐があります。顧問の先生や他の部員からアドバイスをもらい、成長していけることがクラブとして写真を撮る強みだと思います。写真を見てくれた人から良いコメントをもらったり、被写体になってくれた人に喜んでもらえたりすると、嬉しくて、もっと頑張ろうと思えます!」

主なる活動

- 4月 作品展示(本校玄関ホール)／校外撮影会1(長居公園)
- 5月 「FUJIFILM主催 5万人の写真展」出品
- 6月 行事撮影1(体育祭)
- 8月 校外撮影会2(天満橋・中之島エリア)
- 9月 文化祭作品展示
- 10月 行事撮影2(スポーツ大会)



高校1年 田中 聖梨さん「食べ物じゃないよ」



高校1年 織屋 真凜さん「be tired」



高校2年 吳 禾禾美さん「忘却」



高校3年 林 璃帆さん「画面越しの大阪」私の好きなOSAKAフォトコンテスト佳作

- 11月 校外撮影会3(伊丹空港・万博公園)
- 12月 「なんでもありコンサート(NPOいずみっ子)」依頼撮影
- 1月 大阪府高等学校芸術文化祭写真部部門出品
- 2月 行事撮影3(卒業式)
- 3月 行事撮影4(吹奏楽部・コーラス部定期演奏会リハーサル撮影)

学芸ニュース

留学生との交流を通して

異文化を学び、グローバル感覚を養う!!



カナダからの留学生とともに

In the middle of December our school welcomed 4 students from Ottawa, Canada to participate in an international exchange. Sohail, Sebastian, Stuart and Anthony joined in classes with our students and also were able to study some Japanese. The four boys were members of the Ottawa City Baseball Association and were able to join our school's baseball team for some training exercises. The four boys had a wonderful experience. They are grateful to our school, the baseball team and coaches and especially to their host families for make their trip memorable.

昨年12月中旬、国際交流を目的として、本校はカナダ・オタワより4人の留学生を受け入れました。ソヘイル、セバスチャン、スチュアートそしてアントニーが本校のクラスに入り、日本語授業も受けました。留学生4人はオタワ市ベースボールチームに所属していることから、本校野球部の練習にも参加しました。これはすばらしい経験となりました。4人は、今回の来日が思い出に残るものになったことを、本校の生徒、教員、野球部のメンバーおよび監督、とりわけホストファミリーに対し深く感謝しています。



野球部での練習の様子



野球部のメンバーとともに



授業の様子

帰国後、楽しい思い出のつまったメッセージが届きました!



ソヘイルさんからの手紙

The activity I enjoyed the most was going to baseball practices. It was an enlightening experience to see how the sport is played across the world and to observe the similarities and differences. Some of the places I found most enjoyable were the general downtown area of Osaka, the temples in both Nara and Kyoto, USJ, the tallest building in Osaka. I would like to thank my host family for the generous hospitality, Mr. Duggan and Mrs. Duggan, and Mr. Clark for helping to organize the entire trip, thank you to the baseball team and coaches for letting us join their practices and thank you to all the students and staff for hosting us in your school.

私が最も楽しく取り組んだことは、野球部の練習でした。ベースボールというスポーツが、国が違えばプレーのやり方において同じところも異なる点もあるのだということを知り、たいへん印象深い経験となりました。大阪の町はどこへ行っても面白く、奈良や京都の寺院、USJ、大阪で最も高い建物を訪れたことが楽しかったです。ホストファミリーの皆様、いろいろおもてなしいただきありがとうございました。ダガンさんご夫妻、クラーク先生、今回の旅全般にわたってお世話になりました。野球部の皆さん、顧問の先生方、私たちを練習に参加させていただきありがとうございました。加えて、すべての生徒・スタッフの皆様、私たちを受け入れてくださりありがとうございました。

Sohail

ソヘイル・レイ・デ・ハアン



アントニーさんからの手紙

The best thing I did in Japan was practicing baseball with the high school team. It was interesting to see the differences in the way they practiced and their respectful attitude towards the game, which I found was pretty cool. Some of the places I enjoyed visiting include USJ with some of the Gakugei students, Round 1, some temples, Abeno Harukasu, and many more. I'd like to thank all the teachers and staff for making us feel welcome at your school, especially Mr. Morimatsu and Mr. Clark, because without them, this trip would not have been possible. I'd also like to thank the baseball coaches and the players for allowing us to participate in their practices and for teaching us the Japanese way of baseball. Thank you to all the students, for making this trip such a great and memorable experience!

Anthony



左:Sohail、中央:Anthony、右:Sebastian

It's really hard to pick just one thing I liked the best about my trip to Osaka, but I have to say that everywhere we went locally and the rest of Japan, the people were extremely nice and the food was sooo delicious. We were fortunate to not only experience Osaka, but also some of the surrounding areas. From a cultural perspective, I really enjoyed visiting the tallest building in Japan and the temples, especially in Nara. For fun places, Round 1 and Universal Studios were a blast. I want to say a huge thank you to everyone who made this trip possible, especially my host family, all the friendly teachers at Osaka Gakugei School, our new Japanese friends, Coaches Mr. Kozasa, Mr. Kawakami and Mr. Maruyama and the entire baseball team for welcoming us as teammates, my travel buddies Sebastian, Anthony and Sohail, Seb's Uncle Matt, Mr. Clark, Greg and Chikae Duggan and of course, my Canadian family for the support to have this amazing experience. Arigatou gozaimashita!

Stuart Bowden

大阪を訪問してなにが一番よかったか1つには決められないほどですが、大阪や日本で訪れた各地で人々に実に親切にいただいたことと、食べ物がお揃いにおいしかったことはまちがいありません。私たちは大阪だけでなくその周りの地域も体験する機会に恵まれました。文化的な面では、私は日本で最も高い建物や、特に奈良の寺院を訪れたことがうれしかったです。訪れて楽しかった場所としては、ラウンドワンやUSJが最高でした。今回のプログラムにかかわってくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。とりわけ、ホストを引き受けてくださったご家族、大阪学芸の先生方、日本で新たに友人となった人々。そして私たちをチームに迎え入れてくださった野球部の小笹先生、川上先生、丸山先生、そして部員の皆さん。それから今回の旅を共にしたセバスチャン、アントニー、ソヘイル。セバスチャンの叔父様マツさん、クラーク先生、ダガン・グレッグさんとちかえさんご夫妻。そして、カナダの私の家族。本当にこの素晴らしい経験を支えてくださりまして、アリガトウゴザイマシタ!

スチュアート・ボウデン



スチュアートさんからの手紙

日本で最も良かったことは、貴校の野球部の練習に参加したこと。練習方法の違いや野球へのひたむきな取り組み方に触れ、たいへん感銘を受けるとともに、とても素晴らしいなと思いました。学芸生と行ったUSJやラウンドワン、寺院やあべのハルカスなど、楽しい思い出になりました。教職員とスタッフの皆様、迎えてくださりありがとうございました。特に森松校長、クラーク先生なしには、今回の旅が実現することはありませんでした。野球部の先生方、部員の皆さん、練習に参加させていただき、日本のプレースタイルを教えてくださいましてありがとうございました。すべての生徒の皆さん、本当に思い出深い素晴らしい旅になりました。ありがとうございました。

アントニー・ダガン



異文化体験・異文化交流

“マルチカルチャーデー”

附属中学の各学年では、週6時間ある豊富な英語の授業および「国際理解教育」と位置づけている総合的な学習の時間の集大成として、年に1回「マルチカルチャーデー」を設定しています。

1年生

12月14日(金)
本校地下ホール & 本館体育館

1年生に対しては毎年、公益財団大阪府国際交流財団からOFIX国際理解教育外国人サポーターの方々を派遣していただき実施しています。サポーターの出身国は年度によって異なりますが、今年度はエジプト・オーストラリア・韓国・ブラジル出身の方々に来ていただきました。出身国も年齢もさまざまですが、どなたも親しみの持てるお人柄で、生徒たちに気さくに接してくださいました。生徒たちはそれぞれの国についての紹介を聞いた後、たとえば韓国の投壺(トッホ)など、用意していただいた各国の遊びなどを通して交流を深め、楽しい時間を過ごしました。



韓国



オーストラリア



各国の紹介タイム



エジプト



ブラジル

2年生

12月11日(火)
OSAKA ENGLISH VILLAGE
(吹田市万博記念公園)

今年度初めての企画で、アメリカの日常・文化・歴史を英語で体験することで人気の高いOSAKA ENGLISH VILLAGE に行ってきました。「有名なブロードウェイミュージックを楽しむ」「考古学者になりきって恐竜の化石を発掘」など、用意されたいくつかの部屋の中から興味あるもの

を選び、30分間の英語の授業を4回受けました。レッスン内容に合わせた部屋の装飾や、北米出身の元気なインストラクターの方々に囲まれ、まるでテーマパークに来たかのような雰囲気の中、楽しく英語に触れることができました。



Dinosaur Park



Post Office



Cooking Studio



Native American Village



Hollywood



Las Vegas



Science Room



Newsroom



Broadway



Photo Zone

3年生

12月20日(木)・21日(金)
ECC国際外語専門学校(梅田)

従来の高校生に加え、中学3年生も対象となった大阪府主催の「グローバル体験プログラム」に参加しました。生徒たちは、1日目の「インバウンド旅行者 英語でサポート体験」・2日目の「グローバル職業体験」のどちらかを選んで参加しました。床に敷かれた

大きな地図の上で目的地まで案内したり、客室乗務員のスカーフなどを身に付けて機内サービスに挑戦したりと「おもてなし」をキーワードにさまざまな体験に取り組みました。台湾やインドネシアなどさまざまな国・地域からの留学生と楽しく交流する生徒たちの姿が印象的でした。



大阪の紹介



地図の上で目的地を案内



駅のサービスカウンター



ホテルの業務



機内サービス

卒業生の活躍



念願のトリプルアクセル成功!!



公式戦でトリプルアクセルを跳ぶことを目標に練習を重ね、苦手を克服し、ついに全日本選手権でトリプルアクセルを決めた細田さん。フィギュアスケートで大切なのはタフさだと、笑顔を見せながら勝負の世界の厳しさや、フィギュアスケートの魅力を語ってくれました。

ほそだ あやか
2010年度 卒業生 細田 采花 さん (25歳)

第87回 全日本フィギュアスケート選手権大会 (2018.12.21~24 大阪) ショートプログラム

©関大スポーツ編集局

今シーズンを振り返って

今シーズンは、本当に満足のいくシーズンでした。目標にしていたトリプルアクセルをやっと公式戦で跳ぶことができて良かったです。トリプルアクセルは、一昨年ぐらいから練習を始めて、去年の10月の近畿ブロックでようやくプログラムに取り入れることができました。試合になると、緊張など気持ちの変化で難しい面もあるので、習得するのに2年ぐらいかかりました。トリプルアクセルは、やはり踏み切る前が難しいです。私は特に肩を平らにすることを意識しています。このポイントをマスターするまで、頭では理解できていても、なかなか実践することは難しかったです。私は、ジャンプ全般が割と得意なのですが、スピンの苦手です。同じポジションをキープしながら速い回転を続けることが嫌いです(笑)。



©関大スポーツ編集局 全日本フリー

今シーズンで特に目指したことは

全日本で、3本のトリプルアクセルをしっかり着氷することででした。全日本までさまざまな試合をしてきましたが、一番良い2本が跳べたと思います。あまり調子が悪くなかったので、フリーでトリプルアクセルを2本入れるかどうかは、試合直前に決めました。迷いなく試合に臨みたかったことと、全日本が試合の一区切りだったので、決断することができました。

トリプルアクセルの跳べる選手として、メディアでも取り上げられました。何か変化はありましたか。

トリプルアクセルを公式戦で跳んだのは、私が5人目の選手です。特に今までと気持ちは変わりません。しかし、トリプルアクセルを跳んでから、さまざまなどころから声をかけられるようになりました。

フィギュアスケートを始めたきっかけは

母がフィギュアスケートを好きだったので、茨木市のスケートリンクに小学2年のとき連れて行かれたことがきっかけです。4日間行って、スケートが嫌いになりました(笑)。氷に一步踏み出すことが怖く、ハイハイでしか動くことができなかったため、立つ練習からでした。スケートなんか嫌いだ!と思ったのに、スケートのことが頭から離れませんでした。そのときの先生が好きで、レッスンが楽しかったのもあったと思います。そして、小学3年のときから、本格的に練習を始めました。

フィギュアスケートを続ける中で辛かったこと、印象に残っていること

悩んだことは、体型の変化が大きかったですね。中学生ぐらいが一番太る時期だと思うのですが、それを食事管理で調整することが大変でした。体重があると、ジャンプの軸は安定するのでブレずに跳べるのですが、その分高さが出にくくなるので、回転不足になることがあります。その頃は、大会でもなかなかジャンプの加点を得ることができず苦しかったです。

印象に残っている試合は、高校2年のときの近畿ブロック。試合本番中に、プログラムを忘れてしまって…。スピンをするところでスピンを忘れ、ジャンプに進んでしまい、その後でスピンのことを思い出してスピンをし…という感じで、最後のステップをやりきる前に曲が終わってしまいました(笑)。先生に、リンクサイドから「とまれ!!」と叫ばれ、ステップの途中で慌てて止まりましたね。リンクサイドに上がってからは、チームメイトの前で先生にひたすら怒られました。何位だったかは、プログラムを飛ばしてしまったことが印象に残りすぎて覚えていないのですが、何とか予選は通過することができました。

フィギュアから学んだことは

タフさですね。私は、試合の結果が良くても悪くても、その後に影響がないことに定評があるくらいです(笑)。失敗してしまっても、その失敗を巻き戻して覆すことはできないので、次の試合で挽回しようと前向きに捉えます。良かったときの方が泣いてしまいますね…悪かったときの方が、笑っている気がします。「勝負の世界は厳しい」と肝に銘じて、普段から練習に取り組んでいます。



練習風景

©関大スポーツ編集局

学芸新聞第2号でもお話を伺いました。その当時から振り返って感じることは

若かったもので、戻りたいなと思います。取り上げていただいたのが21歳のときだったのですが、体力的にはガクンと変わりました。やはり、疲れがなかなか抜けなくなりましたね。

高校時代の思い出は

高校生活は、とても充実していました。毎日がイベントのようで、元気に通学していました。普段は、毎日の勉強を頑張りながら、芸能活動をしている友人にノートを見せてあげたりして積極的に取り組んでいましたね。修学旅行や体育祭などにもしっかり参加しました。

今後の活動予定・目標は

スケートに関しては、「続けてほしい」とさまざまな方から言っていますが、本当に迷っています。大学に関しては、在籍していた法学部に復学します。今までは選手としての練習や試合を優先してきたので、今年度は卒業を目標に勉学にも励もうと思っています。

学芸生に向けてメッセージを

大阪学芸高校に入らなければ、私はここまで素晴らしい高校生活を送ることができなかったと思います。小・中学校では練習や試合のために途中で授業を抜けるときに、周囲の目が気になることもありました。大阪学芸高校の特技コースでは、私のような生徒たちもたくさんいるので、むしろ勝負の世界を知っている者同士、切磋琢磨していくことができました。

在校生のみなさんには、一度しかない高校生活を心ゆくまで楽しんでほしいと思います。私はスケートしかしてきていないので、もう少し高校生らしいこともしたかったなとは思っています。例えば、恋したり、放課後に友達と遊んだりとか。部活と勉強を一緒にできるのは、高校だけです。真剣に文武に取り組んでいけば、社会での成功にもつながると思います。フィギュアスケートの浜田先生とも最近話したことは、「しょうもないことで怒られる人は、いま取り組んでいることでも成長しない」ということ。「しょうもないこと」にかかわる暇があるということは、それだけ真剣にやるべきことに取り組んでいないことの現れです。そのため、みなさんには何事にも真剣に取り組んでもらいたいと思います。

また、たくさん叱られることが大切だと思います。高校生活では、先生や親、周りの大人が諭して守ってくれますが、社会に出てからはすべてが自分の責任になります。なので、今のうちにたくさんチャレンジして、ダメなことをしてしまったときはしっかりと叱られてください。



プロフィール **細田 采花**
(フィギュアスケート)

今年度の戦歴
2018.10 近畿選手権大会 4位
2018.11 西日本選手権大会 6位
2018.12 全日本フィギュア選手権大会 8位

輝く人
レポート
vol.34

世界大会への出場を目指して!!

幼い頃、くるくる回る姿に魅せられてはじめてバントワリング。
ジュニアからシニアへ一層高いレベルへ、演技に磨きをかけています!

高校2年 **大黒 愛美**さん

▶現在、どのような活動をしていますか。

バントワリングをしています。個人ソロワール(1本のバトンを操る)、個人トゥーバトン(2本のバトンを操る)の2種目を練習しています。バトンスクールに所属してレッスンを受けています。

▶バントワリングを始めたきっかけは

私が幼児期に通っていた体操教室の隣にバトンスクールがありました。5歳の頃、年上のお姉さんたちがくるくと回っているのを見て、自分もやりたいと言ったのがきっかけです。



6歳の頃 コンテストにて

▶活動を続ける中で、良かったこと、辛かったこと

良かったこととしてまず頭に浮かぶのは、高校1年生の時、世界大会に行けたことです。中学3年生の2月にジュニアの部・関西大会で2種目(個人ソロワール・個人トゥーバトン)とも1位を取り、3月には全日本選手権で2位(個人ソロワール)・3位(個人トゥーバトン)を取り、その結果、個人ソロワールの種目で世界大会への出場が決まりました。



JAPAN CUP (2018.8)

高校1年生の8月にクロアチアで行われた世界大会では、3位という結果を残すことが出来ました。

新しい技が出来たときや大会で良い演技が出来たときは嬉しく、楽しいのですが、演技を思い通りに出来ないときは辛くなります。でも、落ち込んで上手になるわけではないので、練習のときには課題をひとつひとつクリアしていくことで、マイナスの気持ちを乗り越えています。本番で思い通りの演技が出来なかったとしても、「次頑張ろう」と気持ちを切り替えています。

▶学業と両立させるために実行している努力・工夫

時間の有効活用と、体調管理です。

レッスンの帰りは遅くなるので、出来るだけ早めに寝て睡眠時間を確保するように心掛けています。定期考査前にもレッスンのあることが多いので、送り迎えをしてもらっている車の中でテスト勉強をするようにしています。

スクールのレッスン以外に、自主練習として18時~21時の時間帯で、体育館を借りて練習しています。体育館が朝の時間帯にしか取れないこともあり、大会前には朝から練習するときもあります。

▶今後に向けての抱負、将来の目標

まずは世界大会で優勝することです。

今年の2月に関西大会(高校生部門)、3月に全日本選手権があります。全日本選手権のシニア(高校生・大学生)で上位の選手に世界大会への出場権が与えられます。ジュニア時代とは違い、より一層高いレベルが求められますが、世界大会への出場を目指して頑張りたいと思います。

その後の目標は明確には決まっていますが、世界で活躍して、多くの人々が笑顔になれるような演技の出来る選手になりたい、と思っています。



全日本バントワリング選手権(2018.3)

大黒 愛美 主な戦歴

- 2017 全日本バントワリング選手権関西大会 ソロワール 優勝/トゥーバトン 優勝
- 2017 全日本バントワリング選手権大会 ソロワール 2位/トゥーバトン 3位
- 2017 インターナショナルカップ 3位
- 2018 全日本バントワリング選手権関西大会 ソロワール 2位/トゥーバトン 3位
- 2018 全日本バントワリング選手権大会 ソロワール 6位/トゥーバトン 5位
- 2018 JAPAN CUP フリースタイル 7位
- 2019 全日本バントワリング選手権関西大会 ソロワール 3位/トゥーバトン 優勝

*上記の結果、3月に行われる全国大会に出場が決定

輝く人
レポート
vol.35

日本を代表する棋士として世界で活躍を!!

プロ棋士として厳しい勝負の世界に身をおく大川さんに、
囲碁を始めたきっかけや研鑽の日々について聞きました。

高校2年 **大川 拓也**さん

▶現在、どのような活動をしていますか。

囲碁の棋士としてプロ生活を送りつつ、学校に通わせていただいています。具体的には、プロ棋士が出場する国内戦・世界戦に出場しつつ、そういった大会で結果を残せるよう、棋士内の研究会などに参加して実力の向上を図っています。現在、世界戦において日本はあまり結果を残せていないので、世界の棋士と対等に戦っていける棋士になろうと決意し、研鑽を積んでいます。



入段祝賀会にて

▶囲碁を始めたきっかけは

父が持っていた『ヒカルの碁』という囲碁を主題とした漫画を小学校1年生の時に読み、主人公に憧れたのがきっかけ

です。始めた頃は近所の公民館に通っていたのですが、半年くらいして、本格的な子供教室に通うことになりました。あのとき『ヒカルの碁』に出会わなかったら、自分の人生は180°変わっていたと思います。

▶活動を続ける中で、良かったこと、辛かったこと

非常に良かったと思えることは、プロ棋士になることによって一流の先生方と話し、そして試合ができることです。また、小さい頃から続けてきた囲碁を打つことで、プロとして生きていけるのはとてもありがたい、と心から思います。

小学生の頃から切磋琢磨してきた仲間と共に棋士になって、これまでも、そしてこれからもお互いに成長していけるのが、とても嬉しく、楽しみに感じます。また純粋に日本一・世界一を目指して努力していける日々は、とても充実していると感じています。

ただ、結果が全ての勝負の世界なので、勝たないと、試合をすることもプロとしてやっていくこともできません。そう



いった中で試合(公式戦)に負けたときの精神的な疲労は大きいですが、囲碁に対するモチベーションを1年中保ち続けることは大変と感じるときも多々あります。

▶学業と両立させるために実行している努力・工夫

学業と活動を両立できているかと問われると、全く自信がないのですが……今、自身が心掛けているのは、メリハリを付けるということです。囲碁を打つときは囲碁に集中し、学業に勤しむときは学業に集中する、といったように、目の前のやるべきことに集中して取り組むのを、自身の指針という目標にしています。

▶今後に向けての抱負、将来の目標

第一の目標は、国内タイトルを取り、まず国内で活躍する棋士になることです。その後、日本代表として世界戦に出場し、世界で活躍する棋士になるのが第二の目標です。目の前のやるべきことをひとつずつクリアしていき、一步步自分の目標に近づいていきます!

また、僕個人として、この機会に囲碁という競技を少しでも知っていただけると嬉しく思います。

大川 拓也 財団法人関西棋院所属 プロ棋士(初段) 主な戦歴

- ・第33回文部科学大臣杯少年少女囲碁大会大阪府大会 優勝
- ・第33回文部科学大臣杯少年少女囲碁大会全国大会 ベスト16(小5・アマチュア時代)
- ・プロ棋士育成機関である「院生」に入る(小5)
- ・プロ棋士になる(2017年10月・高1)
- ・U18の育成選手として日本代表ナショナルチーム入り(高2)
- ・第3回谷口杯ベスト4(高2)
- ・世界リレー碁・大阪チームの一員として出場し、世界戦ベスト8(高2)

第114回 卒業式

卒業生640名 未来へ翔ける!

平成31年2月22日(金) 本校本館体育館に於いて第114回卒業証書授与式が挙行されました。



卒業生入場

吹奏楽部の演奏が流れる中、緊張した面持ちで入場しました。



卒業証書授与

担任の先生によって一人ずつ名を読み上げられ、クラス代表者が壇上で証書を授与されました。

皆勤・精勤賞授与

3か年皆勤賞受賞者は56名、精勤賞受賞者は63名でした。

三賞表彰

*大阪府知事賞

和田 真依さん

*日本私立中学高等学校連合会会長賞

高田 千花子さん

*大阪私立中学高等学校連合会会長賞

山下 紗慧さん

送辞・答辞

在校生代表より送辞が贈られ、卒業生代表が答辞で答えました。



答辞



卒業記念品目録贈呈

卒業生より学校に記念品が贈呈されました。



送別歌斉唱

卒業生全員で『蛍の光』を歌いました。



花束贈呈

保護者代表の方々より卒業生関係教職員へ花束が贈呈されました。



卒業生退場

参列された保護者の方々及び本校教職員による花道の間を、卒業生が退場していききました。



最後のホームルーム



平成30年度 明るい選挙啓発ポスターコンクール 今年も多数入選しました!

毎年、高校美術の授業では、1学期にポスターを制作しています。今年度も323名の作品を本コンクールに出品した結果、1名が大阪市(第一次)審査に特選受賞、5名が入選受賞、さらにその中から、3名が大阪府(第二次)審査に入選し、東京で行われる中央(第三次)審査に進みました。入選した6名の作品は、いずれも美しい色彩と丁寧なレタリング、テーマの趣旨を正確に伝える内容で、それぞれ個性の光る作品ばかりでした。

本コンクールに出品を始めてから、約20年以上たちます。

6年前より、実際に使われている投票箱や投票記載台を住吉区役所からお借りし、「投票する人」「投票用紙に記載する人」になって交代でポーズをとり、作品制作の参考にさせていただいています。選挙権を持つ年齢が18歳からになったことで、より身近なテーマとして取り組めるようになり、学校の制服姿で投票する場面が作品に登場するようになったのも、最近の特徴です。

今後も、さらに新しく魅力的な作品が生まれていく事を楽しみに、このコンクールに出品を続けていきたいと思えます。



後方左から 眞下 菜々子さん、鮫島 麻緒さん、辻 風花さん
前方左から 後藤 彩生さん、伊藤 安澄さん、坂井 月渚さん

本校生徒の作品を含む大阪市特選・入選作品は
大阪市のホームページから閲覧ができます。

<http://www.city.osaka.lg.jp/senkyo/page/0000003067.html>

大阪市(第一次審査)特選

高校1年 眞下 菜々子さん

大阪市(第一次審査)入選

高校1年 伊藤 安澄さん

高校1年 後藤 彩生さん

高校1年 鮫島 麻緒さん

高校1年 辻 風花さん

高校1年 坂井 月渚さん

大阪府(第二次審査)入選

高校1年 伊藤 安澄さん

高校1年 後藤 彩生さん

高校1年 坂井 月渚さん

平成30年度 国税庁主催 税の作文コンクール 「税に関する高校生の作文」、「中学生の『税についての作文』」

高校生の部3名、中学生の部2名 入選!

毎年、高校1年生は現代社会の授業で、附属中3年生は社会科(公民)の授業で税について学習します。その学習をもとに、夏休みの宿題として、国税庁主催の「税に関する高校生の作文」「中学生の『税についての作文』」に取り組んでいます。生徒たちは、日頃の学習と日常生活を関連付けて、日本の税制度について自分の考えをまとめました。本校から高校約700編、附属中約60編の作品を応募し、以下の生徒が受賞しました。

高校では、税の作文への取り組みを始めて10年以上になります。附属中学校では今年の3年生が初めての応募となりました。次年度も応募を予定しています。附属中学校2年生の皆さんは、日頃から新聞などに目を通し、税についての基礎知識を少しずつ身に付けていきましょう。

住吉税務署長賞

1年 岡田 稜子さん 「失意の中で気づかされたこと」

住吉・住之江地区租税教育推進協議会長賞

1年 鷲見 海風さん 「税金と幸福の相互関係」

1年 奥野 文翔さん 「誰かの役に立つ納税」

納税貯蓄組合大阪府総連合会長賞

附属中3年 村松 虎太郎さん 「税金がしてくれること」

住吉・住之江地区租税教育推進協議会長賞

附属中3年 西村 海さん 「平成最後の夏と税」



左から奥野 文翔さん、岡田 稜子さん (鷲見 海風さんは欠席)



左から村松 虎太郎さん、西村 海さん